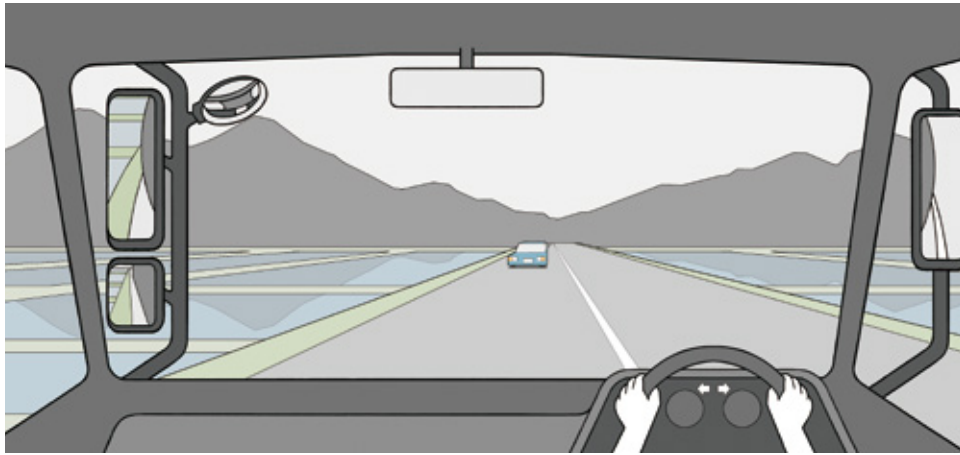


初歩から学ぼう 安全運転の基礎知識

危険予知訓練(KYT)で予測される危険や危険を避けるための運転について考えてみましょう。

見通しの良い単路での気の緩みによる危険とは



状況

あなたは、長距離輸送の仕事をしています。大型のトラックで市街地を抜け、田園風景の中の片側1車線の見通しの良い道路を走行中です。市街地と違い交通は閑散としていて、対向車とのすれ違いもそんなに多くありません。

●どのような運転をすれば危険を避けられるでしょうか？

ヒント:危険は見えている物だけとは限りません。だれが運転していますか？

解答

どのような危険が潜んでいるでしょうか？

危険

交通量が多く、緊張して走行しなければならない市街地に比べ、直線路で閑散とした走り易い道では、つい気も緩みがちです。そんな時、漫然運転や居眠り運転、脇見運転などをしていると、飛び出しや前車の急停止などの思わぬ出来事に気が付かず、事故になることがあります。

【図】上からあなたの車を見た状況



事故データからの考察(参考)

図は、平成25年の大型・中型貨物車の事故件数を道路形状・人的要因別に見たものです。これを見ると、直線単路での事故が最も多く、人的要因別に見ると脇見運転、次に安全不確認など、気が緩んでいるために起きたと考えられる要因が上位を占めています。

どのような運転をすれば危険を避けられるでしょうか？

回避

ハンドルを握って運転している時は、どのような状況であろうとつねに緊張していなければなりません。気の緩みから注意散漫になるのは、得てして走り易い単路の走行中に多いようで、事故データ(下記図参照)にもそれが現れています。緊張を持続出来ないと感じたら、休憩を取るなどして気分転換を図るようにしましょう。事故を起こしてしまったら休憩で使った時間の何十倍、何百倍もの損失が発生してしまいます。

図:大型・中型貨物自動車道路形状別・人的要因別事故件数(平成25年)

